

令和4年度第3回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・日 時：令和5年3月27日(月)14:00～15:30
- ・場 所：和泉市コミュニティセンター1階中集会室
- ・欠席者：上田委員、井元委員、脇田委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) 槇尾校区 AI オンデマンド運行計画素案について
4. 報告
 - 1) コミュニティバス乗降調査結果について
 - 2) 令和5年度年間スケジュール(案)について
5. その他

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：第3回和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会の開催にあたり、挨拶申し上げます。年度末、公私ご多忙の中、お集まりいただき、また平素より本市の市政にご理解いただき重ねて感謝申し上げます。長引く新型コロナウイルス流行から3年が経つが、このゴールデンウィーク明けから5類相当に引き下げが決定しており、制限緩和など実質的なアフターコロナの時代に入る。市民生活だけでなく、インバウンドや観光面を含めて、交通移動が重要になる。交通事業をはじめ、地域の方には引き続き、公共交通の維持活性化に努めてほしい。本日は槇尾校区のAI オンデマンド運行計画素案についてご審議いただき、委員には忌憚ない意見をいただきたい。また、報告事項としてコミュニティバスの利用状況の結果について報告させていただく。委員の皆様には本市の公共交通のより良い発展に向け、積極的なご意見をお願いしたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

- 1) 槇尾校区 AI オンデマンド運行計画素案について

(事務局より資料に基づき、説明)

伊勢副会長：事務局からの説明について意見はあるか。

中田委員：和泉市内で路線バスやコミュニティバス「めぐーる」、路線維持運行バス、オレンジバスを運行しており、採算性も低いものもあるが一体的な交通網と理解し、連携しながら考えてきた。今日説明を受けたAI オンデマンド運行計画の資料の最後の導入計画で業者選定をプロポーザルという形になっているため、現時点ではどの事業者が運行するか分からないということと理解している。

我々は路線バスの運行事業者として、新しい運行計画の実施により路線バスの運営に影響しないという視点をもって協議していきたいと考えている。本日は素案であるので意見としては、この程度としたい。

事務局：公共交通を維持するため、現在の交通事業者との協議の上で地域の足を確保するという理解である。新しい交通を地域に溶け込ませ、利便性の高い移動手段を引き続き協議したい。

伊勢副会長：いくつかにわたり説明いただいた。既存公共交通と共存を図るとされている素案という位置づけであるが、一方で料金が400円と具体的な額が設定されている。400円が他の交通と競合しない妥当性を確認することが必要になると思うが、どの時期を考えているのか。

事務局：業者選定の手前ぐらいまでの時期に検討していきたいと考えている。

伊勢副会長：住民、行政、交通事業者で議論していただくということで、本日の内容が確定というわけではないという理解で良いか。

事務局：そのとおりである。

関戸委員：AI オンデマンドバスの導入については、他の自治体事例を見てみると、コミュニティバスの廃止代替として導入される例が多いと認識している。今回の導入計画の運行イメージをみると、父鬼線、天野山線が運行している中での導入となっており、他とは異なる。今回のAI オンデマンドバスの役割はどのようになるのか。

事務局：AI オンデマンド交通の目的は、地域内のラストワンマイルの移動を支えるものであり、槇尾中学校前や国分峠東を交通結節点として、市内外を結ぶ既存公共交通との役割分担を図るものである。

関戸委員：地元でワークショップを実施していると聞いている。計画の素案に対する地元意見はどのような意見があったのか。

事務局：昨年度から槇尾校区でワークショップを実施している中で、利用料金が低い、納花オークワに行けないなどの意見が寄せられている。これは既存公共交通との役割分担ということで整理している。ただ、料金については意見が続いており、定額制の検討など運用面では対応できないか検討中である。南横山校区では、診療所の代替ということで、利用料金負担を他の部局で負担できないか、また、JAを

目的地として設定できないか検討中である。

岩橋委員：資料 1 の 11 ページに利用料金の負担軽減としてサブスク導入が示されている。定額だと安心して地域の方もご利用できると思う。検討過程の中で実現可能性をどのように捉えているのか。

事務局：他自治体の導入事例を見ていると、運用面での対応事例が多く、交通事業者のノウハウによってその手法は様々である。業者選定の中で今後検討していきたい。

岩橋委員：父鬼線への補助はどの程度あるのか。

事務局：令和 4 年度で地域間幹線の父鬼線の補助額 640 万円に対し、市から 290 万円の補助を見込んでいる。

伊勢副会長：料金が高いとの意見があるとのことであるが、路線バスが父鬼－槇尾中学校前間で 360 円かかる中、400 円が高いとは思えない。サブスクについてはオンデマンドバスのみなのか、その他公共交通も含めたサブスクなのかで内容が大きく変わる。具体的な想定があれば教えてほしい。

事務局：地域から料金が高いという指摘であるが、現行オレンジバスが 100 円であり、その観点で地域内交通に対して 400 円は高いのではという意見である。サブスクについては、400 円に対して利用料金の負担軽減が目的であるので、オンデマンドバスのみ利用を想定している。

伊勢副会長：本来のサブスクは統合型公共交通を考える上で、タクシーなど様々なモビリティを選択可能とすることで意味があると思われ、そこまで考えていかないといけない。400 円をただ安くするとなると、共存どころか既存交通を潰しにかかる話になる。そのあたり 3 者協議の中で意見が交わされると思うので、折衷案を考えてほしいと思う。天野山線については行先を制限するという話であったが、ゾーン運賃制とすると、エリア外への移動は高く取るとか、区間によって料金を変えることで既存交通を残しながら出来ると思うので検討されたい。14 ページであるが、実証運行の時にオレンジバスが同時に運行する時期がある。そもそもオレンジバスの代替としてオンデマンドが導入される。2 つのサービスが走っているのは評価が難しくなるのではないか。輸送量やダイヤなどの影響を正確に評価できないと思う。オレンジバスの運行終了時期を早めることは考えられないか。

事務局：地元と協議する中で、2 台同時運行はややこしいという意見も出ているので、オレンジバス運行終了時期については 1～2 月末までとして考えていきたい。

岩佐委員：14 ページの今後のスケジュールで、2024 年から本格運行とのことだが、2025 年からは（仮称）槇尾学園への通学も始まると思う。この AI オンデマンドバスは（仮称）槇尾学園の輸送を担うことはありえるのか。

事務局：（仮称）槇尾学園への輸送については、2km 圏外はスクールバス対応とし、2km 圏内については徒歩のほか、現在オレンジバスを利用されている児童が一部いる。

市から改めて、AI オンデマンドバスを利用してくださいとは伝えていない。ただ、地域の中で話がなされ、利用する可能性はある。

伊勢副会長：実証運行2ヶ月というスケジュールだが、実証運行によっては本格運行を見送るというケースがあり得るのかどうか。事業性を確認した上で、オレンジバスが妥当と判断されればオレンジバスに戻す可能性はあるのか。

事務局：実証運行・本格運行としているが、本格運行をしながらサービス水準を継続していくのか下げていくのか、それにあたっては地元も含めながら評価軸の設定（収支率、乗車率など）をしながら検討していきたいと考えている。

伊勢副会長：まずは、無償から有償に切り替えることとなり、AI オンデマンドを実施してからどのようにサービス形態を考えていくことになる。来年度はこの形態で運行するということだが、評価指標は事前に共有しておくことが必要である。

岡崎委員：11 ページの運賃設定の考え方は何に基づいて設定していくのか。

事務局：12 ページにあるとおり、利用を登録していただくことを考えている。ここで名前や生年月日の登録をしていく中で料金の差別化を図っていきたい。

事務局：他事例をみると、登録されている携帯番号や下4桁の番号など本人確認などした上で、どこから乗ってどこに行くのか、ということも確認が取れる例がある。そういう例も参考にしたい。

斎藤委員：意見ではないが、14 ページのスケジュールで道路運送法上の手続きが必要になる。申請前に協議会で意見が調う必要があるので、スケジュール管理をしっかりしてほしい。6 ページの乗降場所の注意書きで既存のバス停に区域運行の停留所を設けるにあたっては道路運送法上の制限がかかるので、交通管理者と協議頂きたい。

岩佐委員：スケジュールについてであるが、料金やバス停共用などの調整について路線バスとの調整をしたうえでプロポーザルを実施することが望ましいと思う。後々、トラブルに発展しないように事前に条件等を整理することが肝要かと思う。

伊勢副会長：第一交通にお聞きしたい。AI オンデマンドは、ミーティングポイントの多いサービスとなるが、競合について懸念はないか。

小川委員：和泉市内では6社のタクシー会社があり個々の意向は把握できていない。当社については、今回はあくまでフィーダーという位置付けであり実証しないとわからないが、大きな影響は無いと思う。ただ、区域の拡大等がなされると路線バスやタクシーに影響が及ぶものと考えている。慎重に話を進めてほしい。

伊勢副会長：実証運行中に、移動実態はデータで細かに取れると思うが、バス・タクシーとの競合についてもチェック出来るよう検討されたい。その他意見や質問等がないので、各委員からいただいた意見を踏まえ、事務局で修正のうえ、進めていただきたい。

4. 報告

1) コミュニティバスの乗降調査結果について

(事務局より資料に基づき説明)

伊勢副会長：事務局からの説明について意見はあるか。

藤間委員：利用されているところとされていないところがあるが、現段階で良いのでルート・ダイヤ見直しの方向性があれば教示頂きたい。また、車両の更新は考えているのか。

事務局：ルート・ダイヤの見直しについては、利用頻度の低いバス停の廃止や、駐停車への影響など、安全運行に課題のあるバス停の見直しなど、利便性向上を念頭に置きながら変更を考えている。ルート見直しに当たっては運行ルートを線で結び、変更することを考えている。コミュニティバスの更新について、平成22年度購入が最も古く、耐用年数12年を越えていることは認識している。現状の利用状況や道路環境を踏まえるとダウンサイジングを想定して更新することを考えている。

岡本委員：コミバスの今後のあり方とコミュニティバスの運行は、いつ改訂するか予定を教えてください。

事務局：コミバスの今後のあり方については、令和5年度策定予定の次期公共交通計画の中でコミバスのあり方についても検討していきたい。コミバス運行の改訂は令和6年4月の改定を予定している。

伊勢副会長：乗り込み調査かと思うが、1便ごとの乗車数もわかると思う。便別の利用実績をはじめ、さまざまな視点から集計してほしい。ODは取れていないと思うが、乗降結果からODを予測することも学術的には可能とされているので、余力があれば検討してほしい。その他、意見が無いようであるので、報告事項1は以上とする。では次の報告事項について事務局から説明をお願いしたい。

2) 令和5年度年間スケジュールについて

伊勢副会長：事務局からの説明について意見はあるか

西村委員：AI オンデマンド運行計画の詳細を教えてください。また、地域公共交通の計画策定支援の事業者と同一になるのか。

事務局：令和5年度のAI オンデマンド交通計画策定事業について、阪和線西側エリアを対象に令和5年度に策定した上で令和6年度運行を目指すものである。地域公共交通計画とAI オンデマンド運行計画策定の事業者は計画の整合性や人員配置を考慮して同一と考えている。

齋藤委員：コミュニティバス運行事業再編立案を令和5年度ということだが、2024年問題があり、ドライバーの労働時間が短くなるという話がある。働き方改革の一環の取り組みとなり、運転手の時間制約を踏まえて、人数等を確保することが必要に

なると思うので、その点を踏まえて検討を進めてほしい。

伊勢副会長：コミュニティバスについてであるが、利用に合わせて運行を変更するだけではなく、利用促進策と合わせて検討してほしい。その他に質問等がないようであるので、その他に進む。

3) その他

伊勢副会長：最近の公共交通会議の内容についてであるが、南部地域の話になっており、意見しづらい委員もいるかと思う。ただ、この議論は他地域のガイドラインになるので、議論に参加してほしい。その他、事務局から報告はあるか。

事務局：地域公共交通計画の策定についてであるが、地域間幹線補助に関連し、泉大津市及び鳳土木の職員を委員に入れたい。安全上問題があるバス停が3箇所あり、南海バスと協議中である。コミュニティバスルート・ダイヤ改正については次年度の第1回和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会でご提示したい。

伊勢副会長：その他、意見が無いようであるので、進行を司会にお返しする。

5. 閉会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の公共交通利用活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

